

称号及び氏名 博士(看護学) 水引 智央

学位授与の日付 令和6年3月31日

論文名 新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングに関する研究—尺度開発とセルフモニタリングが及ぼす影響の探索—
Self-Monitoring in Multitasking of Advanced Beginner Nurses:
Scale Development and Exploring the Impact of Self-Monitoring

論文審査委員 主査 細田泰子
副査 長畑多代
副査 簗持知恵子

論文内容の要旨

【目的】 新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度を開発し、セルフモニタリングが及ぼす影響の探索を行うことである。

【概念枠組み】 文献的考察に基づき、多重課題におけるセルフモニタリングが自己調整学習方略に影響を及ぼし、自己調整学習方略が看護実践能力に影響を及ぼすという概念枠組みを構築した。

【予備研究 I】 新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングに関する質的研究

方法： 2年目看護師 14名を対象として、多重課題におけるセルフモニタリングについてフォーカスグループインタビューを実施し、質的記述的に分析した。

結果： 多重課題におけるセルフモニタリングの様相に関する内容として、90のコード、25のサブカテゴリー、5つのカテゴリー「直面している状況を認識する」「多角的な視点で自分を見通す」「状況に呼応した具体策を絞り込む」「予測性をもって計画する」「自分に関わる周囲の状況に留意する」が抽出された。多重課題におけるセルフモニタリングの実効として、27のコード、10のサブカテゴリー、4つのカテゴリー「スムーズな多重課題遂

行》《患者に関わる機会の増加》《行動変容を促す振り返り》《実践と学習をつなげる》が抽出された。

【予備研究Ⅱ】項目の尺度化および専門家会議による表面妥当性・内容妥当性の検討

方法：予備研究Ⅰおよび文献検討をもとに尺度化した新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度原案の表面妥当性と内容妥当性について、臨床経験5年以上で1・2年目看護師への教育経験を有し、修士以上の学位をもつ5名を対象にグループインタビューを実施した。

結果：各概念と尺度項目の整合性、順序性、表現の明確性、回答のしやすさについて検討し、尺度の修正・精選を行い、96項目から5つの下位概念と78の尺度項目となった。

【予備研究Ⅲ】内容妥当性指数 (Item-level Content Validity Index : I-CVI) の検討

方法：臨床経験5年以上で、1・2年目看護師への教育経験を有し、修士以上の学位をもつ看護学研究者5名と看護師5名の計10名を対象に、質問紙調査を実施した。

結果：I-CVIが0.78未満の5項目を削除し、73項目が採択された。

【本研究Ⅰ】新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の信頼性・妥当性の検討

方法：全国の一般病床数200床以上の医療施設に勤務する1・2年目看護師1,817名を対象に、新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度原案、自己理解尺度、成人用メタ認知尺度、個人背景からなる質問紙調査を実施した。項目分析後、信頼性は内的一貫性、安定性（再テスト法）、妥当性は構成概念妥当性（探索的因子分析・確認的因子分析）、基準関連妥当性（外的基準との相関）を確認した。

結果：553名から回答が得られ、506名（有効回答率27.8%）を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析により、【進捗管理のモニタリング】【情報探索のモニタリング】【対処方略のモニタリング】【自己力量のモニタリング】【連携促進のモニタリング】の5因子30項目が抽出された。Cronbach's α 信頼性係数は0.750～0.871、適合度指標はGFI=0.877、AGFI=0.856、CFI=0.902、RMSEA=0.056であった。自己理解尺度との相関は $r=0.494$ 、成人用メタ認知尺度との相関は $\rho=0.602$ を示した。再テスト法による級内相関係数は各因子で0.702～0.858を示し、尺度全体では0.850（95%CI：0.777～0.899）であった。

【本研究Ⅱ】新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングが及ぼす影響の探索

方法：全国の一般病床数 200 床以上の医療施設に勤務する 1・2 年目看護師 3,191 名を対象に、新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度、看護師の自己調整学習方略尺度、看護実践能力自己評価尺度、個人背景からなる質問紙調査を実施した。概念枠組みに基づき、多重指標モデルを用いて共分散構造分析を行った。

結果：721 名から回答が得られ、644 名（有効回答率 20.2%）を分析対象とした。分析の結果、〔多重課題におけるセルフモニタリング〕から〔自己調整学習方略〕へのパス係数は 0.89、決定係数は 0.80、〔自己調整学習方略〕から〔看護実践能力〕へのパス係数は 0.73、決定係数は 0.54 であり、正の影響を及ぼすことが明らかになった。モデルの適合度は GFI=0.910、AGFI=0.856、CFI=0.935、RMSEA=0.099 であり許容範囲内であった。

【倫理的配慮】 全ての研究は大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を得た上で実施した。

【考察】 新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度は信頼性と妥当性を確保した尺度である。本尺度は多重課題における思考を評価できる尺度となった。多重課題におけるセルフモニタリングは自己調整学習方略を介し看護実践能力に影響を及ぼすことが確認された。新人レベルにある看護師が多重課題の経験から自律的に学び、看護実践能力の向上につなげるためには、セルフモニタリングへの支援が有効であると考えられる。今後は多重課題におけるセルフモニタリングを高める関連要因について検討していく必要がある。

キーワード：新人レベル看護師、多重課題、セルフモニタリング、尺度開発

Key words: advanced beginner nurse, self-monitoring, multitasking, scale development

学位論文審査結果の要旨

本研究は、新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度を開発し、セルフモニタリングが及ぼす影響の探索を行うことを目的としている。これまでにセルフモニタリングを測定する尺度はあるが、看護師の多重課題における思考を評価できる指標は見当たらない。自己調整学習ではセルフモニタリングの内容から学習行動の調整が行われるとされているものの、自分の認知活動を認識する機能であるセルフモニタリングに焦点をあてた研究は稀少であり、多重課題におけるセルフモニタリングの把握には至っていないことから、独創性・新規性を有する研究である。本研究の成果は、多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度を用いて看護師自身の思考を客観的に把握することで、多重課題への対応に寄与できる。セルフモニタリングが自己調整学習方略、さらに看護実践能力に及ぼす影響を明らかにすることは、看護師の能力向上につながる教育的アプローチに資することが期待され、学術的重要性・妥当性が認められる。

新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の開発では、フォーカスグループインタビューの質的分析をもとに尺度項目を作成し、COSMINの方法論に基づき、尺度の信頼性・妥当性を検討する適切な方法を用いていた。【進捗管理のモニタリング】【情報探索のモニタリング】【対処方略のモニタリング】【自己力量のモニタリング】【連携促進のモニタリング】の5因子30項目から構成され、内的一貫性と安定性による信頼性、構成概念妥当性、基準関連妥当性を有する尺度であることが確認された。さらに、文献的考察に基づき構築した仮説の検証では、共分散構造分析を行い、多重課題におけるセルフモニタリングは自己調整学習方略を介し看護実践能力に影響を及ぼすことが示され、適合度は基準を満たしていた。これらのことから、科学的根拠に基づく妥当な研究方法が用いられていることが確認された。本研究の遂行において、研究対象者の自由意思に基づき、研究協力の負担を最小限にする等の倫理的配慮を十分に行ったことが確認された。本研究は、自己調整学習におけるセルフモニタリングに関する研究に新たな知見を提供し、新人レベルにある看護師の多重課題への自律的な学びや支援の促進につながり、看護学の発展に寄与するものであると考える。

以上のことから、本研究は博士論文としての学術的価値を有しており、博士（看護学）の学位の授与に値するものと判断した。